平成 29 年度　第１回北海道東部の竪穴住居跡群調査懇談会　議事概要

１　日時及び場所

日時：平成 29 年７月 25 日（火）　９時 20 分から 11 時 30 分

場所：道庁別館西棟３階　会議室１

２　出席者

＜構成員：３名＞

熊木俊朗　東京大学大学院人文社会系研究科准教授（座長に選出）

天野哲也　北海道大学総合博物館研究員

澤井　玄　北海学園大学非常勤講師

＜斜里町教育委員会：１名＞

松田　功　斜里町立知床博物館学芸主幹

＜公益財団法人北海道埋蔵文化財センター：２名＞

長沼　孝　第１調査部長

坂本尚史　普及活用課主査

＜北海道教育委員会：４名＞

小松文化財・博物館課長　西脇文化財調査グループ主幹　ほか

３　意見交換

＜話題提供＞

斜里町教育委員会が「斜里町チャシコツ岬上遺跡について」と題して話題提供を行った。

・チャシコツ岬上遺跡は、オホーツク文化後期の大規模な集落遺跡であり、町が史跡指定を目指しているところである。

・三方が海に面した標高 50m以上の急崖上という本遺跡の立地環境は、オホーツク文化後期の集落立地の特徴を併せ持つものであり、当該期の典型かつ特殊な事例といえる。こうした立地の理由として、眺望の良さが考えられる。

・遺跡内からは、住居・墓・貝塚（廃棄層）といった、集落を構成する諸要素が揃って検出されている。骨塚やヒグマの歯を伴う配石遺構からは、動物儀礼の変遷を辿ることができる可能性がある。

・廃棄層から神功開宝が出土した。道央の擦文集団を経由して搬入されたのではないかと推察される。

その後、話題提供や竪穴群調査計画について意見交換が行われた。

＜構成員の主な発言＞

チャシコツ岬上遺跡について

「眺望以外にも特異な立地環境にある理由を考える必要があるだろう」

「内部構造が明らかにされた大規模集落であり、立地的にも典型的なオホーツク文化の特徴をすべて兼ね備えている例は本遺跡の他にない」

「オホーツク文化の変容の過程を連続的に知ることができる重要な遺跡である」

道指定史跡の指定範囲と竪穴分布範囲の齟齬について

「竪穴分布範囲の座標データを収集する必要がある」

「道教委が主導して問題の把握と解消に努めてもらいたい」